

愛有会 運営事業所

久米川病院

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-393-5511**

介護老人保健施設

久米川

通所リハビリテーション

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-313-0710**

訪問看護ステーション

はぎやま

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-396-7700**

指定居宅介護支援事業所

はぎやま

東京都東村山市本町 4-7-14
TEL. **042-391-3007**

指定居宅介護支援事業所

こはぎ

東京都東村山市栄町 2-10-51
NSビル 107 2階
TEL. **042-391-3021**

三愛病院

東京都八王子市宮下町 377 番地
TEL. **042-691-4111** (代表)
TEL. **042-691-4131** (相談室直通)

さんあい 介護医療院

東京都八王子市宮下町 377 番地
TEL. **042-691-4111** (代表)
TEL. **042-691-4131** (相談室直通)



社会医療法人社団 愛有会

愛有会通信

■発行者／東京都東村山市本町4-7-14
社会医療法人社団 愛有会
TEL.042-390-2033
<http://www.aiyukai.jp>

社会医療法人社団 愛有会

愛有会通信

令和2年7月 発行

Vol.7

通算 第226号



愛有会 基本理念

1. 地域包括ケア

私たちは、医療・看護・介護・予防・生活支援のサービスを通じて、地域と共に安全で安心して暮らしていける街づくりに貢献します。

2. 環境経営

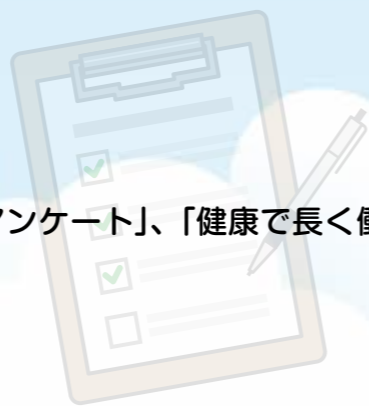
私たちは、様々な環境への取り組みを責務と考え、職員全員で質の向上と環境負荷の低減に努めます。

3. 健康経営

私たちは、職員の健康保持と共に働き方改革を推進し、多様な人材が向上心を持って働き続けられるよう努めます。

健康経営

愛有会では健康経営の活動として全職員を対象に、「腰痛アンケート」、「健康で長く働くためのアンケート」を実施しました。



アンケート結果

メタボリックシンドローム

Q1. メタボ予防、改善に関して何か行っていることはありますか？

- | | | |
|------------|---------------|--------|
| 52%…食事 | 42%…運動 | 6%…その他 |
| ・規則正しい食事 | ・ランニング、ウォーキング | ・カラオケ |
| ・バランスを考える | ・体操、ストレッチ | ・ゲーム |
| ・休肝日をとる | ・徒歩通勤、自転車通勤 | ・散歩 |
| ・間食を摂りすぎない | ・ジム通い | |
| ・ゆっくり良く噛む | ・競技（卓球、水泳等） | |

Q2. 食生活の改善の定着に向けて何か行っていることはありますか？

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 32% …… バランスを考えている | 12% …… 休肝日をとっている |
| 25% …… 間食をとりすぎないようにしている | 9% …… ゆっくり良く噛んで食べる |
| 22% …… 規則正しく食べている | |



栄養相談

2017年度から職員に対しての栄養相談を開始し、2019年度は1年で成果を出し、特定保健指導の対象者から3名が卒業しました。

肥満・糖尿病・脂質異常症・高血圧などの生活習慣病は、症状がないため危機感の薄いケースが多く、栄養相談数が伸びない要因となっています。

今後は多くの職員に受け入れられるような仕組みや関り方を、模索していきたいと考えています。

栄養科主任 竹内秀幸

腰痛

Q1. 腰痛はありますか？

- 38% …… はい
62% …… いいえ

Q2. 「はい」のうち腰痛の治療をしていますか？

- 13% …… はい
87% …… いいえ

◆腰痛は、30～60歳代の幅広い年代でみられた。腰痛対策としては、ストレッチ、マッサージ、内服薬、腰痛ベルトなどで対応している職員がいる一方、約9割の人が腰痛を自覚しつつも、治療していない結果であった。現在、各事業所で取り組んでいる腰痛体操を今後も継続していく。



はぎやま腰痛体操



タバコ

Q1. たばこを吸いますか？

- 23% …… はい
77% …… いいえ

Q2. たばこをやめたいと思いますか？
(久米川病院のみ)

- 45% …… はい
55% …… いいえ

◆法人全体で23%と高止りしていることがわかった。今後はポスターでの禁煙の啓発、禁煙希望の職員に向けた面談や産業医による禁煙外来受診を勧めていく。



さんあい介護医療院

医療と看護と介護を提供します



院長 大川原 真澄

長らく八王子で療養医療を行ってこられた三愛病院は、令和2年4月1日に介護医療院「さんあい」を開院いたしました。ご自宅での介護が困難になられたご高齢者の方々にご入所いただき、介護はもちろん必要な医療も提供いたします。ご家族の希望、ご本人の希望を尊重した、その人らしい生活を送れるように支援いたします。当施設は緑豊かな滝山城址自然公園内に立地しています。

竹林に囲まれてお心が和みます。春は梅や桜が咲き、秋の紅葉も楽しめます。風光明媚なこの地で、穏やかに療養できるようスタッフ一同心を込めてお世話をさせていただきます。

施設紹介

快適な居住空間のための様々な工夫が満載です

■ ナースステーション



落ち着いた雰囲気でお迎えいたします

■ エントランス



ホテルのような重厚な佇まいです

■ 居室（個室）



日当たりのいい落ち着いたお部屋です

■ 食堂・談話室



木漏れ日が入る広々としたスペースです

■ リハビリ室



PT / OT / ST が所属し
様々な機能回復訓練を実施しています

■ 相談室



前面扉を設置したカーペット仕様の
個室空間です

最新型！ダイキンエアコン設置

利用者さまの健康保持を最優先に考え、ストリーマ除菌ユニット搭載の最新型エアコンを導入しました。クリーンな空調環境をご提供いたします。



介護医療院

介護医療院とは？

「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と、「生活施設」としての機能を兼ね備えた施設です。長期にわたり療養が必要な要介護者に対して、「長期療養のための医療」と「日常生活上の支援」を一体的に提供します。

Q. 病院とは違うのでしょうか？

介護医療院は病院ではなく、長期療養を受けながら生活する施設ですが、医師や看護師の配置が義務付けられており、医療を提供することができます。病院・診療所から移行して開設した施設の場合、「〇〇病院」「〇〇診療所」等の名称を使用する場合があります。

Q. どのような設備がありますか？

療養室の定員は4人以下でパーテーションを設置する等、入所者のプライバシー空間に配慮し、長期療養にふさわしい施設となっています。また、食堂、レクリエーション・ルーム、機能訓練室などが設けられています。

Q. 利用料金はどうなっていますか？

入所者の方の要介護度と施設のサービス内容により介護報酬上の単位が定められています。また、居住費・食費については施設との契約額となります。（低所得の方は負担軽減の対象となります。）

Q. 受けられるサービスとは？

日常生活に必要な医療処置や看護、介護、リハビリテーション等を提供し、入所者の方の能力に応じ、自立した日常生活を営むことを支援します。

Q. どのような人が利用できますか？

要介護1～5の方であって、病院に入院するほどではないものの、例えば、喀痰吸引や経管栄養等の日常的・継続的な医学管理等の理由により、在宅や他の介護保険施設等で支えることが難しい方などが想定されます。

Q. 最期まで居られるのでしょうか？

看取りやターミナル対応も介護医療院の機能の一つとなっています。詳細は、相談室までお気軽にご相談ください。



三愛病院の 今をお伝えします



令和2年4月1日より4・5F病棟は「さんあい介護医療院(120床)」として運営を開始いたしました

#1

道路沿いの看板をリニューアル致しました

#2

庭園の桜が見事に満開です
中庭にあるかわいいオブジェも心なしか微笑んでいます

#3

来院者P裏にある「調整池」には、鯉やカメが生息しており知る人ぞ知る穴場です

#4

その風流な穴場池に、最近鶴によく似た「鷺(さぎ)」が飛来するようになりました

#5

ご家族用送迎バスの時刻表が変更されました。(HP参照)
なお、乗車場所の変更はありません



3F病棟(60床) 「介護療養型医療施設」にて運営中

えっ！2023年度末廃止！

国の方針で、2023年度末に廃止が予定されている「介護療養型医療施設」ですが、その転換先である「介護医療院」の数は2020年4月現在、東京都内にわずか16か所となっています(東京都福祉保健局調べ)

ご利用者の声

介護医療院の今後の動向に、とても期待をいたしております。



通所リハビリテーションより

開設より1年が経ちました。利用者様の生活のしやすさや悩みの解決に向けて、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。



今年は早めの満開からしばらく眺めることができました。歩行訓練中の花見ができました。



階段昇降のトレーニング



花見散歩の様子です。

天気がよく、写真映えの1日。



送迎車両のご案内です。開設と共に歩んできたシエンタです。只今仲間を募集中です。



フロアの様子



マシントレーニングのご様子です。分かりづらいですが、スピード感がある写真です。



写真はゴムクッションをもって握力増強をされている御姿(左) 足首を柔らかくする様子(右)。

なんでも使ってトレーニングをします。

入院から退院まで

当院は東京都指定二次救急医療機関です。入院を必要とする中等症・重症患者に対応します。

救急外来

救急車で搬送された場合、救急処置室にて医師の診察・検査等を行います。



救急外来入口にて

入院

入院が必要と判断された場合、2階の地域包括ケア病棟へご案内します。

40床（4人部屋・9部屋・陰圧設備の個室・4部屋）



病棟リハビリ風景

治療・リハビリテーション

リハビリ室のリハビリテーションだけでなく、食堂等の病棟内で日々の生活がリハビリに繋がるようサポートします。



多職種カンファレンス

多職種カンファレンス

治療方針やリハビリテーションの進み具合、今後の方針、退院に向けて問題になることなどを、医師、看護師、相談員、リハビリスタッフ等で話し合い、情報を共有します。

退院

治療が終了し退院に必要な目標が達成されたら、自宅や施設等へ退院されます。

当院は24時間で救急医療に対応しています。包括支援センターやケアマネージャーを通しての入院や相談等も受け付けています。

2019年10月に萩山町から移転し、明るく静かな環境で入院生活が過ごせるよう、病棟イメージカラーをグリーンとしました。また解放感溢れる大きな窓が特徴の機能訓練室で、在宅復帰していただけるよう支援していきます。



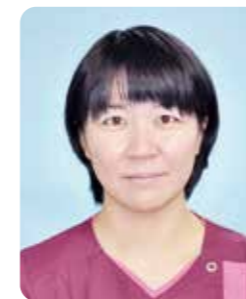
機能訓練室



個室



4床室



看護部副部長 横尾 藍

看護部副部長の横尾藍です。萩山町から本町に引っ越しをして早いものでもうすぐ一年となります。

当院・当施設は、地域の皆様が安心して暮らしていけるよう、医療・介護の面で少しでもお役に立てればと思い日々邁進しております。医療・介護の面で何か困っていることはありませんか？どんな事でもお気軽にご連絡ください。



地域包括ケア病棟 看護部課長 山本 恵視

地域包括ケア病棟の責任者をしています。入院期限60日という限られたなかで、患者様が治療を行いながら元の生活へ戻れるよう多職種と連携しながら看護を行っています。現在、整形外科手術の受け入れ準備を進めており、スタッフと共に新しい分野へチャレンジしています。



外来 看護部係長 戸井田 裕子

外来は、救急車の受入れ、外来診療、内視鏡、健診の業務を担当しています。当院は東京都二次救急医療機関として、救急の患者様の受入れを365日24時間体制で実践しています。

外来診療では、病気や治療に対する不安や苦痛が少しでも軽くなるようひとり一人に寄り添い、思いやりのある診療を提供できるよう心掛けています。

訪問看護ステーション はぎやま

～よろず相談はじめます～

訪問看護ステーションはぎやま 所長 佐野 みゆき



2020年は冒頭から大変な年になりました。新型コロナウイルスの感染予防策から始まり、経済活動の縮小、マスク不足に始まり、噂に惑わされた生活用品の買い占めなど、皆様大変な毎日を送られていることと思います。

医療の崩壊も叫ばれ、医療従事者は不安や恐怖と闘いながらケアに当たっております。私達訪問看護は在宅に伺ってケアを行うため、ウイルスの運搬役とならないよう細心の注意を払って感染予防に努めています。入手が困難なマスク・アルコール消毒はもちろんのこと、足りない防護用品は手作りして備えています。

しかし、まずは自身の健康が一番！よく食べ、よく寝て、ストレスは溜めない！フレイルにならないよう歩く！そして、利用者のご家族の健康にも注意しながら仕事に励んでいます。

そして、2020年4月1日より小平と東久留米の分室開設に向けて非常勤看護師を1名ずつ配属しました。二人とも大ベテランの看護師です。研修や勉強会、地域交流などを担当する予定ですが、今は活動できませんので、まずは電話での相談業務から始めます。内容は、訪問看護のこと、癌のこと、感染予防のこと、どんなことでも結構です。お気軽にお電話ください。ご自宅へ伺うこともできます。準備ができ次第お知らせいたしますので、ぜひご利用ください。よろしく申し上げます。

新型コロナウイルスに打ち勝つためにがんばっています！

新型コロナウイルスの話題を聞かない日はなく、気持ちもふさがちです。しかし、訪問を待っている方のため、訪問看護師は気を引き締めて、毎日走り回っています！

訪問に必要な、感染予防のためのマスクやアルコールなどの物品は、今のところ在庫を切り崩しながらも必要数はなんとか確保できています。しかし、どうしても手に入らない物は手作りしています。現在は、クリアファイルを使用した「シールド」と呼ばれる防護用品を作っています。



病院と違い在宅では、何でも身近にあるものを代用していかなくてはなりません。点滴台がなければ、ワイヤーハンガーを使って手作りしますし、陰部洗浄の際はペットボトルの蓋に小さな穴をあけて、簡易シャワーを作ります。そんな日頃の知恵があればこそ、今回のような事態にも対応できるのだと思い、乗り切るため皆でアイデアを出しあっています。

早い終息を願いつつ、今日もせっせと製作しています！

←クリアファイルにゴムをつけ、顔全体を覆う防護用品です

指定居宅介護支援事業所 はぎやま

居宅はぎやまの現状とこれから

居宅介護支援事業所はぎやま 所長 高橋 佐知子



10月に久米川病院内に移転してから、半年以上が過ぎました。居宅介護支援事業所が2ヶ所に分かれてしまったため、以前の賑やかさがなくなり、少し寂しい状況です。人数は少なくなりましたが、今までと変わらずしっかり連携していきます。

現在、新型コロナウイルスの影響で色々な活動に支障が出ています。ケアマネージャーに欠かせない研修会や、地域との交流がなかなか図れず大変な状況ではありますが、電話での情報交換など私達にできることを継続していきたいと思っています。

一日も早く終息し、平穏な日々が戻ってくる事を願います。



指定居宅介護支援事業所 こはぎ

こはぎ経過報告

居宅介護支援事業所こはぎ 所長 立石 あさひ



昨年10月にオープンしました「こはぎ」です。あっという間に半年が過ぎ、そうこうするうちに新人が入職し、なんとめでたく3人体制をとることができました。

おかげ様で土曜日でも交代勤務で対応できることになり、土曜日対応を希望する利用者様のご意向に添うことができ本当に良かったと思います。

一方では新型コロナウイルス対策で大変な状態にあると思います。3月に急逝した志村けんさんも、命をかけてコロナの恐ろしさを教えてくださいました。私達もできる限りの対策を真摯に行い、利用者様の「困った」に応え続けられるよう努力したいと考えています。



地域のニーズに合わせた研修や、同じ悩みを相談できる場づくりのために、計画を練っています！

「はぎやま」で開催している月一勉強会「村の集い」は、引越しや新型コロナウイルスの影響で開催できない状態が続いています。しかし、この問題が終息した暁には、どーん！と開催したいと考えております。そこで、研修の窓口として活躍する相談のエキスパートである看護師を2名採用しました。今まで以上に、利用者様の不安に寄り添い、地域の方と情報を共有できる場が作れたらと、現在計画を練っているところです。

とりあえずは、「よろず相談所」として電話で対応できるよう準備中です。今後も地域包括の中心となる事業所を目指して、できることからコツコツとがんばってまいります。

